さいしん

第 17 号

2007 年 12 月 7 日発行

袴田巌さんの再審を求める会　会報

年間会費：3000 円／郵便振替口座番号：00120-3-410592／口座名称：袴田巌さんの再審を求める会

〒240-0024　横浜市保土ヶ谷区瀬戸ヶ谷町 53-4-205　TEL&FAX：045-743-1468（鈴木方）

HP アドレス：http://hakamadajiken.hp.infoseek.co.jp/

開催決定！2008 年１月２４日（木）午後６時

袴田巌チャリティBOXING
～FREE HAKAMADA NOW！～

いますぐ、袴田さんを自由に！

～ Contents ～

○レ ポ ー ト	“袴田事件支援チャリティ BOXING”発表記者会見	事務局・石井	・・・・2
△新 聞 報 道	袴田死刑囚再審へ名誉ライセンス	東京新聞より	・・・・4
△新 聞 報 道	１・２４チャリティ BOXING 関連の各種新聞報道	朝日新聞ほか	・・・・5
○レ ポ ー ト	ついに袴田巌さんとの面会を実現することができました	事務局長・鈴木	・・・・6
＊面 会 記 録	2007 年 10 月 19 日～2007 年 11 月 27 日	事務局	・・・・7
☆投　　稿	袴田さん支援に見る「もう一つの力」	田村 みどり	・・・・8
○ニ ュ ー ス	「袴田巌さん支援 T シャツ」好評発売中です	事務局	・・・・9
△新 聞 報 道	T シャツで再審支援　66 年の一家殺害「袴田事件」	朝日新聞より	・・・・10
△連　　載	弁護団に訊く　第２回　西嶋勝彦弁護士（前編）	福田 勇人	・・・・11
○ニ ュ ー ス	袴田事件トピックス	事務局	・・・・15
＊活 動 報 告	活動日誌・活動予定ほか	事務局	・・・・16

袴田巌支援チャリティＢＯＸＩＮＧ ＦＲＥＥ ＨＡＫＡＭＡＤＡ ＮＯＷ 発表記者会見

事務局・石井

11 月 27 日、東京・後楽園ホールに於いて 2008 年１月 24 日開催の「袴田巌チャリティ BOXING」（主催：日本プロボクシング協会）の発表記者会見が行われました。

当日は日本プロボクシング協会袴田支援委員会委員長：大橋秀行会長、日本ボクシングコミッション(JBC)：安河内剛事務局長、支援委員会委員長：新田渉世会長、元世界王者のレパード玉熊氏、飯田覚士氏、戸高秀樹氏、佐藤修氏、川島勝重選手、そして西嶋勝彦弁護団長、袴田秀子さんが出席、司会進行は日本プロボクシング協会：北澤鈴春事務局長が務められました。

記者会見に列席された元世界王者のみなさん

～ボクシング界の支援は着実に拡がっている～

まず大橋会長からこれまでの活動と来年への意気込みが話されました。大橋会長は今年の４月、東日本協会の会長に就任するにあたり「袴田支援委員長」も引き受けられたわけですが、そのためにはまずご自身が納得しなければいけないと考え、新田会長から資料をもらったり、レクチャーを受けたりして徹夜で勉強したそうです。事件現場へも足を運び、自分自身で袴田さんの無実を確信した上で委員長を引き受けられました。そしてそれ以降、世界戦での情宣を手始めに全日本協会で正式に支援委員会を発足させ今日に至っています。

さらに支援Ｔシャツの販売なども開始し、来年

再審開始への意気込みを語る大橋秀行会長

１月２４日には「袴田巌チャリティ BOXING」の開催の運びとなった事を説明されました。

～亀田興毅選手にも参加を呼びかける～

新旧世界チャンピオンの皆さんにも協力をいただき大いに盛上げて行きたいとし、これまでも協力してくれた内藤大助選手、さらに亀田興毅選手にも参加を呼びかけるつもりであるそうです。そして、来年３月には再び最高裁への要請行動を行い、再審開始を強く訴えて行きたいと考えていること。さらに‘ビッグプラン’は来年1月１４日のタイトルマッチで大橋ジムの川島勝重選手が世界チャンピオンに返り咲いた暁には、２４日のリングで会長自ら川島選手にスパーリングで挑戦してイベントを盛上げたいと語られました。大いに楽しみです。

～袴田さんに‘名誉ライセンス’の授与を～

つづいて安河内JBC事務局長から、JBCとしても袴田さん支援に出来ることをしていきたいとの意

名誉ライセンスの発行を表明した安河内剛・
日本ボクシングコミッション事務局長

向が表明され、今度のイベントに合わせて袴田さんに「名誉ライセンス」のような物を発行したいと発表されました。無実を訴え続ける獄中４１年の闘いに敬意を表し、再審開始への支援に貢献できれば幸いですと話されました。新田会長からは１月２４日のイベントの概要説明がされました。その他、参加された元世界チャンピオンたちは「再審請求というものの困難さがこの一年で判ったように思える。だからこそもっともっとひろく世間の人々に知ってもらうために自分たちのできる事で協力していきたい」といった発言が異口同音に語られました。

～最高裁は「自判、再審開始決定」を～

そして袴田弁護団の西嶋弁護団長からは、１２月半ばには「補充書」の第３弾を提出し、支援の拡がりによる世論の後押しもいただきながら来年の早い時期での最高裁での「自判・再審開始決定」か、悪くても「静岡地裁への差戻し、再審請求の審理やり直し」を、強く求めていきたいと力強い

西嶋弁護団も会見に出席し、決意表明を行った

決意表明がなされました。

～巌さんも支援の拡がりを感じている～

袴田秀子さんは午前中に面会を
果たした後、会見に駆けつけた

また、袴田秀子さんはこの日も巌さんに面会ができてこの記者会見に駆けつけられました。巌さんは顔色もよく上機嫌でお話されたとのことです。ボクシング界の皆さんの支援や来年のイベントとの事など話すと理解している様子で頷いていたそうです。

来年のイベントでさらなる世論の喚起をはかり、再審の重い扉を開かせたいとの参加者一同の熱い思いがこもった記者会見となりました。■

“袴田巌支援チャリティＢＯＸＩＮＧ～ＦＲＥＥ ＨＡＫＡＭＡＤＡ ＮＯＷ～”
１・２４イベント関連の新聞報道より

元ボクサーの袴田死刑囚に名誉ライセンス贈呈へ（朝日新聞　11/28付）

財団法人・日本ボクシングコミッションは、６６年に静岡県で一家４人を殺害したとして刑が確定した元プロボクサー袴田巌死刑囚（７１）＝再審請求中＝に名誉ボクサーライセンスを贈ると２７日発表した。袴田死刑囚は元日本フェザー級６位で、６０年には当時の年間最多記録となる１９試合を戦った。同コミッションによると、名誉ライセンスは日本チャンピオン級以上の元ボクサーが対象で、社会的な理由で発行するのは初めてという。

来年1月２４日に日本プロボクシング協会が東京・後楽園ホールで開く袴田死刑囚の支援大会で贈呈式をする計画だ。

元プロボクサー袴田死刑囚支援チャリティーボクシング　来年１月開催（スポーツ報知　11/28付）

日本プロボクシング協会（ＪＰＢＡ）は２７日、都内で会見を開き「元プロボクサー、袴田巌死刑囚　支援チャリティーボクシング」を来年1月２４日、後楽園ホールで開催することを発表した。

大会は、１９６６年に起きた袴田事件の再審を求めるＪＰＢＡ支援委員会（大橋秀行委員長）が運営。日本ボクシングコミッションが袴田死刑囚への名誉ライセンス贈呈式を行う。また、1月１４日にＷＢＡ世界スーパーフライ級王座に挑戦する川嶋勝重（３３）＝大橋＝が奪取に成功した場合、元ＷＢＡ世界ミニマム級王者の大橋会長との師弟スパーリングを予定。川嶋は「王者として支援の力になりたい」と話した。

最終補充書提出へ　「袴田事件」再審請求（静岡新聞　11/28付）

旧清水市で１９６６年6月に一家４人が殺害された「袴田事件」で、再審請求している元プロボクサー袴田巌死刑囚（７１）の弁護団（西嶋勝彦団長）は２７日、都内で開いた会見で、再審を求める特別抗告の理由補充書を来月１７日に最高裁へ提出すると発表した。

通算３回目の補充書提出は今回が最終で、弁護団は年明けにも最高裁に最終意見書を出し、早期に結論を出すよう求める方針。法的な支援活動は事実上終了することになり、最高裁がどう判断するか注目される。

補充書の内容は袴田死刑囚が犯行当時に着ていたとされる“５点の衣類”の矛盾点を指摘する新証拠。西嶋団長は「証拠品とされたズボンでは（小さすぎて）袴田さんがはけないことを科学的に証明するため、繊維業者に協力を得るなどして再実験した」と話した。

弁護団はこれまで昨年１２月と今年５月に補充書を提出。５点の衣類に付着した血液が被害者のものであることが科学的に証明されていない点を指摘したほか、東京高裁が再審請求を棄却した際、新証拠に認めなかった心理鑑定（浜田鑑定）の採用などを求めている。

川嶋、大橋会長と師弟スパー（スポーツニッポン　11/28付）

元プロボクサーの死刑囚で無罪を主張して再審請求をしている袴田巌さん（７１）を支援する「チャリティーＢＯＸＩＮＧ」が来年1月２４日に東京・後楽園ホールで開催される。日本プロボクシング協会が主催し、日本ボクシングコミッションから名誉ライセンスが贈呈されるほか、新旧の世界王者がスパーリングを行う。来年1月１４日にムニョスとの世界戦を控える川嶋勝重（大橋）は師匠の大橋会長との師弟対戦を予定。川嶋は「現役王者の方が説得力があるんで頑張りたい」と王座奪取で盛り上げることを誓った。

ついに袴田巖さんとの面会を実現することができました！

求める会事務局長・鈴木

２１年目にして始めての面会実現

１０月３１日（水）、ついに袴田巖さんとの面会を実現することができました。１９歳の時に、ボクシングマガジンに書かれた郡司信夫さん（ボクシング評論家・故人）の袴田事件に関する記事を読んで以来、21年間にわたって大なり小なり袴田事件に携わってきましたが、初めて本人と直接お話しすることができたのです。

これまでも、今年６月に被収容者処遇法が改正されたことを受け、頻繁に東京拘置所を訪れてきましたが、ことごとく拘置所側に面会不可とされてきました。それだけに余計うれしく、感動的な瞬間となりました。

「本日に関しては面会を認めます」

この日は袴田秀子さん、支援者としてすでに何度か面会を果たしている清水・静岡市民の会の山崎俊樹事務局長とともに面会の申請を行いました。待つ事約３０分。いつもなら窓口の係りの方から、「面会は認められません」とあっけなく断られて終わりなのですが、この日は３人で奥の事務室に通されました。出てきた外部交通区長から、事前に郵送しておいた『面会に関する申入書』の私に関する記載内容の聞き取りを受けたのち、「本日に関しては」と釘を刺された上で、面会が認められました。

「なんて若々しいんだろう！」

はじめての拘置所の面会室。独特の雰囲気に自分でも緊張で固くなっているのがわかります。やがて袴田さんが入ってきました。初対面の私を特に気に様子はありません。秀子さんから「この人が鈴木さん。前から話してた人だよ」と紹介されると、にこにこと笑いながら「ああ、そうですか」と言って挨拶をしてくれました。

「なんて若々しいんだろう！」

それが、私が袴田さんに抱いた第一印象でした。髪はすっかり薄くなっていましたが、肌はつやつやで血色も良く、とても７１歳には見えませんでした。

会話を続けていくと、確かに意味不明の言動があるのは事実です。しかしながら、事前に想像していた以上に顔の表情が豊かで、事件に関係ない部分の話（ボクシングに関する昔話など）の記憶はしっかりしていました。

面会を終えて。（左から）清水・静岡市民の会・山崎俊樹事務局長、私、袴田秀子さん

「それは自分じゃないから」

翌週の１１月６日（火）、今度はボクシング協会の新田渉世さんとともに再度面会に訪れました。

実は前回の面会の時に、ひとつ心に引っかかるやりとりがありました。私と山崎さんは、袴田さんのイラストをあしらったTシャツを身に着けて面会をしたのですが、このイラストを指差しながら、「それは自分じゃないから」と盛んに言っていたのです。

「イラストが似ていないということなのかな？」

そう思った私は、前回に引き続き、今回も袴田さん支援Tシャツの別バージョン（小さい袴田さんのイラストが入っているもの）を身につけ、袴田さんのファイティングポーズをとったポスターを持ち込んで面会に臨みました。

＜鈴木＞　今回も袴田さんの支援Tシャツを着

てきたんですよ。(立ち上がって見せる)

「それは、人の顔でやったってしょうがないじゃない」

＜鈴木＞　(袴田さんの写真を見せながら)これ、袴田さんですよね。イラスト、似ていませんか？

「(自分の顔を指差しながら)全然違うじゃないの。人の顔でやったって意味ないよ(明らかに不愉快な感じ)」

“そうか、単にイラストが似ていないという意味ではなく、過去の袴田巌の存在を否定しているんだ。「死刑判決」を受けた袴田巌と決別することで、精神状態のバランスを保っているんだ。”そう気付いた私は、この話題を即座に引っ込めることにしました。

「ボクシング界のために良いことだよ」

続いて新田さんが、最近のボクシング界の支援の様子を紹介しました。

＜新田＞　先週は多くのボクシング興行で袴田さんのことをアピールしました。１０月３０日はファイティング原田さんがアピールをしてくれたんですよ。(チラシを見せながら)原田さん、知ってますよね。

「ああ、知っているよ」

＜新田＞　来年１月２４日にはボクシング協会が主催して、袴田さんを支援するイベントを開くことになりました。その時にはたくさんの世界王者が出てくれて、アピールしてくれることになっています。

「たくさんの世界王者が出るのは良いことだ。自分は日銀の社長になったから、金はいくらでも出す。１億円くらいわけないから、どんどんやってくださいよ。ボクシング界のために良いことだよ」

新田さんの印象では、最初の面会時よりは表情や話しぶりに微妙な変化が見られると話していました。外部の動きを受け止めつつ、自ら構築した世界を壊されてはならないという、葛藤があるのではないかとのことでした。

こまめな面会が精神状態を確実に良くする

１１月１４日（水)、私は３度目の面会のため東京拘置所を訪れましたが、約１時間待った後、係の方から「今日は会いたくないと言っている」と伝えられました。本人の面会拒否は約半年ぶりのことでしたので心配されましたが、１１月２７日に秀子さんが面会、元気な様子だったと聞かされ、ホッとしました。

こまめな面会を続け、外部の世界をきちんと伝えていけば、袴田さんの精神状態は確実に良くなっていくと確信しています。今後も東京の支援者の責務として、面会活動を続けていくつもりです。■

面　会　記　録（2007年10月19日～11月27日）

10月19日（金）午前	○実現　新田・(鈴木)
10月31日（水）午前	○実現　秀子・山崎・鈴木
11月6日（火）午前	○実現　新田・鈴木
11月14日（水）午前	×不可　鈴木
11月27日（火）午前	○実現　秀子

（カッコ内は拘置所側による拒否）

読者の皆様へ

事務局では、『さいしん』に掲載する原稿を募集しています。どんな内容でも、少しだけでも結構です。できるだけ多くの方の声を誌面に反映させていきたいと思います。

袴田巌さん支援に見る「もう一つの力」

西東京市在住　田村みどり

昨年、都内の大学で開催された冤罪をテーマにするシンポジウムで「袴田事件」を知った。

当日は無実の人を救う運動に尽力する識者や研究者が、「狭山事件」など再審請求中の事件を中心に報告。日本の刑事司法のあり方を検証した。弁護士で元大学教授の庭山英雄さん、作家の伊佐千尋さん、大学院教授の矢澤昇治さんに続き、登壇したのは「袴田巌さんの再審を求める会」事務局長の鈴木武秀さん。この事件を分かりやすく報告し、最高裁に特別抗告中の元プロボクサー・袴田巌さんの無実と支援を訴えた。

「冤罪」シンポジウムで「袴田事件」について報告する鈴木武秀事務局長（2006年9月・専修大学）

長い時は16時間にもなった23日間の過酷な取り調べ。「血染め」と報じられたが、実際は微量の血液しかついていない犯行時着用のパジャマ。原型をほとんど、とどめたままの４人を殺傷した凶器「くり小刀」。事件発生時に袴田さんが通ったとされる「通れない裏木戸」。事件発生から１年経って発見された「５点の衣類」と当人がはけないズボン。そして「ボクサー崩れ」と袴田さんを犯人と決め付けたセンセーショナルな新聞報道の数々……。その一つひとつはどれも尋常ではない。

これは、袴田さんをはじめ不幸にして「事件」に巻き込まれた人だけの問題だろうか。もしかしたら自分の家族が、いや私がある日突然、このような目に遭うかもしれない。現に日本各地でいまなお冤罪事件が相次いでいるではないか。

この日は、再審開始で無罪を勝ち取った「島田事件」や、ハンセン病罹患の被告人が一貫して無実を訴えながら絞首台に消えた「藤本事件」も報告された。これら冤罪事件から日本の捜査、刑事司法にあまりに共通項が多いのに気づかされた。それは自白中心主義の支配だ。特に「自白強要システム」として働く代用監獄制度（現・代用刑事施設）の存在は、人権擁護団体「アムネスティ・インターナショナル」から廃止勧告を受けているにもかかわらず、今なお存続。袴田さんもその犠牲者だ。

鈴木さんからは、獄中で拘禁症に苦しむ袴田さんの現在の様子、逮捕以来、袴田さんを支えてきたお姉さまの秀子さんや支援に乗り出した輪島功一さんらプロボクサーの活動も報告され、「縁の下の力持ち」となっている支援者の尽力がいかに大きいかを実感させられた。

つい最近、同じ会場で冤罪シンポジウム第２弾が開催された。そこでの「布川事件」の報告の中で、主任弁護人の谷村正太郎さんから次のような発言があった。「市民による冤罪に対する取り組みや支援は、壮大なる『陪審裁判』をしてきたのではないか。社会を動かす大きな力は市民の力であり、それが冤罪をなくす一歩になる」。

「冤罪」シンポジウム第２弾で再審開始が決まった「布川事件」について話をする主任弁護人の谷村正太郎さん（左）と、抗告人の櫻井昌司さん（2007年12月・専修大学）

谷村さんのお話から、ノーム・チョムスキー

の『覇権か、生存か―アメリカの世界戦略と人類の未来』の一節を思い出した。「今日の歴史の中に、人は二本の軌道を見出すはずだ。一本は覇権に向かい、狂気の理論の枠内で合理的に行動し、生存を脅かす。もう一本は『世界は変えられる』という信念に捧げられ、イデオロギー的な支配システムに異議を唱え、思考と行動と制度という建設的な代案を追求する」。

元裁判官の熊本典道さんの衝撃的な発言などで「袴田事件」はマスコミでたびたび取り上げられるようになり、私の周りでも同事件を知る人が多くなった。鈴木さんに誘われ今春、都内で開かれた「救う会」の集会に出席したが、会場は多くの参加者で埋まり、特に若い人たちの姿が目立った。

世界と人類を破壊しつつある現象（それをアメリカ流グローバリゼーションだとしている）に対抗して、「世界は変えられる」とのスローガンの下に結集する民衆の「もうひとつの力」に、人類の希望があると言うチョムスキー。冤罪に立ち向かう支援者の「もうひとつの力」に、世界は変えられると確信する。■

「袴田巖さん支援Ｔシャツ」好評発売中です

９月２７日に後楽園ホールでお披露目された『袴田巖さん支援 T シャツ』。おかげさまで大変な好評をいただいています。現在はボクシング会場や各種集会等で販売しておりますが、すでに３００枚以上の売上げがありました。この収益は日本ボクシング協会袴田巖支援委員会と、各支援団体の活動資金とさせていただいております。

また T シャツを製造している鐘百繊維工業（株）では、年内にもウエブサイトによる販売を予定しています。どうぞご期待ください。■

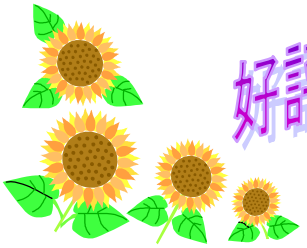
袴田巖支援Tシャツ購入申込希望の方はこちら
鐘　百　繊　維　工　業　（　株　）
kane100@kt.rim.or.j

支援Ｔシャツ（サイズ　Ｌ・Ｍ・Ｓ）
１枚　２，８００円（税込、送料別）

茶色地で、左胸部に袴田さんの小さなイラストをあしらっています。前面に“Free Hakamada Now!”とプリントしています。さりげなく袴田事件をアピールするには最適です。

チャコール地で、袴田さんのイラストが大きくプリントされています。袴田事件を広く世間に伝えたい方は、このＴシャツを着て街に出ると注目を集めること請け合いです。

グレー地で、ファンキーなボクサーのイラストがプリントされています。一見袴田事件と関係ないようですが、ちゃんと“Free Hakamada Now!”のロゴが入っています。普段着にも最適です。



好評連載

弁護団に訊く

第２回　西嶋勝彦　弁護士（前編）

～聞き手：福田勇人～

前号の連載第１回は、弁護士登録を済ませたばかりの戸舘弁護士に登場してもらいましたが、今号からは前後編の２回に分けて、弁護士生活43年目の大ベテランで、今年２月から袴田事件弁護団の団長を務めている西嶋勝彦弁護士に訊きます。再審事件弁護のエキスパートとして数々の冤罪事件に携わってきた経験談からは、日本の刑事司法の欠陥だけでなく、日弁連が抱える問題も浮かび上がってきました。

――西嶋弁護士はどちらの出身ですか。

福岡県の博多です。高校卒業まで博多にいて、大学入学と同時に東京に出て来てからはずっとこっちに住んでます。

――昔から弁護士を目指していたんですか。

そうでもないんだな。大学 1、2 年の時は全然違うことやってたんだけど、親父が弁護士なんかいいんじゃないかって言ってたから、それも面白いかと思ってね。それで司法試験を受けて、1963年から司法修習、65年の４月に東京弁護士会に登録して、最初は東京合同法律事務所に入った。メーデー事件とか松川事件なんかの弾圧事件を扱っていた事務所だった。弁護士になったばかりの頃は労働事件をやりたかったんだよ。でも東京合同にはあまりその手の事件がなくってね。いつの間にか刑事事件にシフトしていって、八海事件の第３次上告審の上告趣意書作成に加わった頃から冤罪事件に引き込まれていったわけ。一時期、僕は日本で一番多く再審事件をやってたんじゃないかな。

――徳島ラジオ商殺し事件の弁護団にも入っていたんですよね。

そう。団長は和島岩吉弁護士で、僕は副団長。その第５次・６次再審請求の主任裁判官が秋山賢三弁護士で、彼が再審開始決定を書いた。

――袴田事件のとの関わりはいつからですか。

きっかけは島田事件ですよ。僕はその弁護団にも入ってたんだが、島田事件と袴田事件とは静岡地裁で係属部が同じだった。裁判所は島田事件の進行を優先させてたから袴田事件は塩漬けになってて大した伸展はなかったの。島田事件が1989年に再審無罪で決着がついたでしょ。それで袴田に加わってくれないかと言われたんだ。半年ぐらいどんな事件か見てたけど、徳島の事件で一緒だった田中薫弁護士と角田由紀子弁護士が袴田事件弁護団にすでに加わっていて、彼女たちから強く誘われたということもあってね。それ以前にも、東京合同で一緒だった福地明人弁護士と上田誠吉弁護士が袴田事件の控訴審と上告審をやっていたもんだから、それとなく見てはいたんだな。何かやってるなと。

袴田事件は、最初は日弁連と関係なく、一審から担当してた斉藤準之助弁護士が中心になって再審を申立てたはず。その後、日弁連に救済申立てがあって人権擁護委員会で審査して、1981年に事件委員会が発足し、その時に委員長になったのが伊藤和夫弁護士。日弁連チームと元々の弁護人で弁護団を構成して、弁護団長には伊藤さんがなった。そのうち斉藤さんが亡くなったから日弁連チームが中心的な役割を果たすようになったわけ。

――日弁連の袴田事件委員会と袴田事件弁護団とはどう違うんですか。

日弁連なんか頼らずに本来の弁護団だけでやっている事件も色々あってね。例えば狭山事件の場合は解放同盟という強力な支援団体があるから、わざわざ日弁連が支援する必要はないんだな。狭山の弁護団が日弁連の支援を強く求めたということもないしね。どうしても金がないとか、支援組織がないとか、そういう事件から救済の申立てがあった時には一通りの予備審査をして、冤罪の疑いが強く再審の可能性があ

るという場合に事件委員会を発足させて、その委員が弁護団に入って支援する体制をとる。

今ある事件委員会では、袴田事件の委員数が10人で一番所帯がでかいんじゃないかな。他は5、6人、多くても8人ぐらいだと思う。あとは任意の弁護人ということで弁護団を構成するんだ。だから今年から入った若い人たちはみんな事件委員会の委員じゃなくて、いわゆる弁護人。委員には日弁連から交通費・宿泊費・鑑定費用・記録謄写の費用なんかが支給されるんだけど、予算の関係があるから委員の数を無限に拡げるわけにはいかないでしょ。これを去年くらいから、両者の差があまりにも大きすぎるから委員に支給されるお金を全部プールして、乏しきを分かち合おうということで公平に分配することにしたんだよ。だから例えば東京の委員が静岡の弁護団会議に出席すると、支給される旅費は実質半分ぐらいになっちゃう。それに対して弁護団内部から、もっと日弁連は予算を増やすべきだっていう主張が出てるんだが、日弁連の実情を知ってるから僕としてはなかなかその主張に乗っていけない。乏しい予算の中から袴田事件だけ特別っていうわけにはいかんのよ。

本来の姿からすると、救援活動なり支援活動が全国から沢山カンパを集めて、それで弁護団の活動を支援するとか合宿費を支援するとか、そういうのが望ましいんだけど、なかなかそこまで行かないでしょ。自分たちの活動費用を賄うのに精一杯で、弁護団の活動費用にまで回せない。

――おっしゃるとおり我々支援者の懐具合はお寒い限りですが、日弁連の財政事情は本当に厳しいんですか。

今は厳しいね。だって日弁連は色んなところに手を出してるでしょ。例えば、共謀罪反対、裁判員制度、国際調査団を派遣して諸外国の立法事情を調査しに行ったりもする。再審事件支援はほんの一部の活動だからね。どうしても人権活動は毎年赤字になっちゃうから緊縮が叫ばれるんだな。

ただ、金がなくて活動ができない時のことを考えて人権基金というのを作っていて、この原資は何かと言うと、再審事件で無罪を勝ち取った時に支払われる刑事補償金の一部を拠出してもらってるお金でね。鑑定費用とか弁護人の活動費用を全部丸抱えで負担したわけだから、多少の金銭的報酬を受け入れてもいいんじゃないかということで基金にしてるんだな。それにしたってそんなに沢山あるわけじゃなくて、おそらく死刑再審無罪の4人から1事件あたり1000万か2000万か拠出してもらってるだけだから、基金として積まれてるのは1億円にも満たないと思う。

このお金は再審事件だけじゃなく人権活動全体に使えるようになってるんだが、めったなことで取り崩すわけにいかんのよ。一旦取り崩すとすぐ無くなっちゃうからね。再審事件支援予算をアップしてくれと言うのもわからんではないけれども、ある程度は弁護人の犠牲でやらざるを得ない。若い人たちに参加してもらうのはありがたいし、どんどん参加してもらいたいんだけれども、ちゃんと費用も払いますとは言えない事情があるんだな。

ただ、県庁所在地を旅費の基準にしている今の不合理な規定を改める必要はある。浜松から東京に来るのに静岡までは全然旅費が出ないというのはちょっとおかしい。でも、全員に機械的に旅費を払えと言うのは、袴田事件だけ何を言ってやがるんだと他の委員会から言われかねないし、再審弁護団が一致して日弁連の予算当局に申請しても、お前さんたちがすべてじゃないでしょとなるのが落ちだと思う。

――そうなると自分たちで活動資金を集めるほかないですね。

対外的に募金を集めたりできればいいんだけど、僕らそういう才覚あまりないしね。

――ブックレットの売り上げはどうなんですか。

あれはどうなってるのかな。救援組織と一緒に出してるはずだけど、弁護団に印税が入ったっていう話は聞かないなあ。今度誰かに聞いてみるよ。

――旅費もろくに出ないということを聞くと、日弁連は本気で再審事件に取り組む気があるのかとも思ってしまうんですが。

それはちょっと的外れな非難だね。さっきも言ったけれど、日弁連は委員会に結集した委員を通じて弁護団を支援する体制になってるから、委員の外で私もやりたいと言って参加してくれるのは大いに歓迎。だけどそういう人たちすべてには手は回りませんというだけの話で、それは皆さん方で解決してくださいということ。少なくとも委員の旅費・調査費・鑑定費用などに関して不便が生じないようにしてるわけで、現に袴田事件についても真壁鑑定や沢渡鑑定などの費用は惜しまず出してるはずだからね。

――今年の9月に鳩山法務大臣が死刑執行に関してとんでもないことを言った後、それに対して日弁連は何の抗議もしてないですよね。ホームページなどを見る限りそういう抗議をしたというニュースは見当たりませんでした。

日弁連には死刑執行停止法の成立を目指す委員会があるから、そこで会長声明出してくれということで、当然出してるはずだけどねえ。もし何もしてないなら死刑冤罪事件を支援してるところが黙ってるっていうのはちょっとおかしいね（筆者注：後日日弁連に問い合わせたところ、法相発言に対し会長声明等で正式に抗議した事実はないという回答を得ました）。

――それに関連して、鳩山法相が死刑制度に関する勉強会を開いているというニュースを先日見たんですが、そこに死刑廃止推進議連の保坂議員らが呼ばれたようです。日弁連には声は掛からなかったんですか。

僕らには伝わってきてないけど、さっき言った死刑の執行停止法を実現させるための委員会のメンバーが声を掛けられているのかもしれない。日弁連も縦割り社会的な部分があるから横にニュースが広がらないところがあるんだな。

――日弁連はこれまで色々な再審事件支援に取り組んできたと思いますが、そうした事件の情報はきちんとデータとして蓄積されてるんでしょうか。情報面の支援についてはどうでしょう。

それはなかなか難しいところなんだけれど、各事件委員会の委員が日弁連に保管されている別の事件委員会の記録を見たりするのは一向に差し支えないし、学者が研究したいという場合も提供している。それから再審弁護団会議というのが年に1、2回開かれてるから、そういう場で日常的な問題について意見交換することもできる。『再審通信』というのも年に何回か出しているからね。

――そうした支援があるにもかかわらず、再審開始の壁を突破できてないですよね。再審制度自体が機能していないという印象が強いんですが。

日弁連は前々から刑事訴訟法の再審部分の改正を訴えている。再審開始の要件をもっと緩やかにしろとか、検察官控訴を認めないとか、検察官手持ち証拠の全面開示とかね。もちろん証拠は確定前から全面的に開示すべきなんだけれども、検察はみんな出し切って有罪を取ったんだから、あとは言ってみればいらない資料なわけで、増してそれは税金を使って集めたんだから、少なくとも有罪が確定した以上隠す理由はないから全部公開しろとか、色々な案を発表している。だけど、なかなか国会が動いてくれない。

それと、1975年に最高裁が出した白鳥決定の後、免田・松山・財田川・島田の死刑冤罪4事件とか徳島事件なんかで再審無罪を取れていた時期があったから、刑訴法改正までしなくても、運用で何とかなるんじゃないかという淡い期待があって改正運動が下火になってしまった。以来、再審冬の時代を迎えたわけだけど、一昨年ぐらいから、布川事件や名張事件で開始決定が出始めてはいるんだ。だけど、知ってのとおり

巻き返しが激しくてね。

――名張事件は同じ証拠で全く逆の判断ですね。常識だと考えられないですが、どういうことでしょうか。

再審に対する考え方や証拠の見方が全く違うということだろうね。

――自由心証主義ってやつですか。

日本の場合、こういう証拠が出たらこういう判断しなきゃいけないってことになってないから、もちろん合理的な心証じゃなきゃいけないんだけれども、はじめから棄却ありきで、そういう思想に取り付かれている裁判官が決定を書いたから真逆の結果になった。

結局、白鳥・財田川決定の思想が裁判所には浸透していないんだな。あれに対する反発がかなりあるね。俺たちが心血注いで有罪だとしたものを、再審のちんけな新証拠で簡単にひっくり返されちゃかなわんというような、そういう独善というか思い上がりがあるんじゃないかな。

――裁判官や検察官と協議したり話したりする機会は多いんですか。

そんなにはないね。東京弁護士会の副会長だった時とか、役員だった時はあったよ。東京地裁や高裁の裁判官と、でかいテーブルを挟んで話をしたことはあるが、別に一緒に酒飲んで話すわけじゃないから、そんなに親密にはならないよね、建前の議論ばっかりで。

――そういう裁判官の独善的な傾向をあらためて、再審制度を機能させるにはどうしたらいいんでしょうかね。

一番いいのは法曹一元といって、はじめは全員弁護士になって、検察官や裁判官は弁護士経験者がやる。日弁連は戦後一貫して主張しているし、アメリカはそうでしょ。今のようなキャリアシステムは任官1日目から裁判官席に座って裁判できるわけ。弁護士を経験したからといって全ての裁判官が合理的な判断をするとは限らないけれども、大勢で見れば誤りは少ない。市民の気持ちが理解できるか、市民生活を経験してるかは重要だと思う。

――今でも弁護士任官制度がありますよね。

ほんの少数ね。

――あれは人数の枠が決まってるんですか。

いや、最高裁が取るか取らんかの話で、弁護士会が推薦しても、いや一杯だから取らないと言われればそれまでで、何人採らなきゃいけないとかそういうのはない。法律があるわけじゃないから運用の問題で、弁護士会が推薦した人は基本的に採るようにしましょうということだけれども、最終的な審査権は裁判所が持ちますよと。全国で毎年10人ぐらいじゃないかな（筆者注：平成元年から15年までの任官者数は55人で、年平均3.6人）。家裁の調停事件とか家事事件の審判官とかには結構進出してるようだし、パートタイム裁判官、つまり普段は弁護士をやってて臨時で裁判官になるシステムもあるけれど、調停事件の仲介役とかで判決は書かないから、重大な事件を任されることはないんだな。

――一度裁判官になった弁護士は何年か経つと戻るわけですよね。

それは当人の自由で、ずっと裁判官を続けてもいいんだよ。ただ、一度弁護士事務所を閉めて戻ってくるのは現実的には難しい。大きな合同事務所とかにいた人なら戻る場所があるかも知れんが、1人2人のところだと戻る場所がない。退官後に戻る場合はあるけど、そのまま裁判官を続ける人が多いようだね。そんなことだから裁判官になることに踏ん切りがつかなくて、希望者が少ないのが実情だね。法曹一元には裁判所法などの改正が必要だし、口で言うほど簡単なことじゃない。■

――後編に続く――

袴田事件 トピックス

内藤大助対亀田大毅、大興奮の有明決戦会場内で袴田事件をアピールしました！

新田渉世さんも声を枯らしてアピールしました！

１０月１１日（木）に有明コロシアムで行われた内藤大助対亀田大毅戦の会場内で、袴田事件のアピールを行いました。

戦前から両陣営の舌戦がヒートアップし、世間の大きな注目を集めたこの一戦。午後４時３０分の開門と同時に多くのファンが押し寄せ、場内で応援合戦を行う異様なムードでしたが、わたしたちは内藤、亀田両選手の応援ブースの間に挟まれながら、新田渉世さんを先頭に声をからして必死のアピールを行いました。

皆様のご協力で、この日支援Ｔシャツは３６枚の売り上げがありました。今回は特に若年層と女性のファンの方が興味を示してくれたのが印象的でした。またこのほかにカンパも３２，４０２円いただきました。深く感謝いたします。■

世界死刑廃止デー企画「響かせあおう 死刑廃止の声 2007」において、袴田事件をアピールしました！

（左から）安田好弘弁護士、鈴木宗男衆議院議員、佐藤優氏の３名による鼎談の様子

さる１０月１３日（土曜日）、東京・江東区総合区民センターにて、１０月１０日世界死刑廃止デー（死刑廃止世界連盟 WCADP、2002年設立）にあわせた企画「響かせあおう 死刑廃止の声」が開かれました。「袴田巌さんの再審を求める会」では情宣活動の一環として支援Ｔシャツ・書籍の販売を行いました。

集会では死刑廃止へと向かう世界の動向が紹介され、韓国では１０年間死刑執行がなく事実上の死刑廃止国になったことを記念し金大中元大統領なども出席して行われたイベントの様子が、出席した安田好弘弁護士から報告されました。また今年の２月パリで開催された第３回死刑廃止世界大会ではすべての国が死刑を廃止することを求める宣言を発表しました。そして５月には国連・拷問禁止委員会の日本の審査では「死刑の執行をすみやかに停止」するように勧告がなされました。そんな中での鳩山法相の問題発言（単なる無知の可能性もありますが、死刑を順番に自動的に執行してしまえないかと言わんばかりの暴言）があってもいまひとつ世間やマスメディアは反応が鈍く、死刑制度の是非をめぐる真摯な議論すらなかなか起きない事を憂慮する現状が報告されました。

この日のメインイベントとして鈴木宗男衆議院議員、佐藤優元外務省主任分析官（起訴休職中）そして安田弁護士による鼎談がおこなわれました。１０月１６日東京新聞朝刊の「こちら特報部」にくわしく掲載されています。テーマは「はたして日本の刑事司法、警察・検察の捜査の現状は死刑制度に堪えうるのか」。３人ともに検察によるでっち上げ同然の事件で東京拘

置所に長期勾留され、現在も裁判が進行しているという間柄です。ご自身の経験を踏まえて、検察さらには裁判官がいかに冤罪を作り上げるかを赤裸々に語ってくださいました。刑事裁判の有罪率 99.9%という異状さが何を物語っているのか。‘ 無罪を取られた ’検察官は勤務評定がさがり出世コースから外されていくという人事圧力が効いている。まともな人でもまともではなくさせる組織、それが日本の警察・検察の姿です。それが近年ますますひどくなっている。公務員の劣化、権力（統治機構）の劣化が起きていると異口同音に指摘されました。また佐藤氏は、自分自身も権力側にいたのでその怖さ・強さ、弱さを知っている。だから裁判では原則的な主張を貫いて最善を尽くすが期待はしていない。むしろ‘ 法廷 ’はいろいろな所にある。例えば今日のような集会での発言とか、出版とか様々な場所で主張を展開していきたいといった事を述べられていました。

鈴木宗男氏は富山の冤罪事件の例なども出して、なぜ間違いを犯した警察官・検察官・裁判官が処罰されないんですか、と怒りもあらわにしつつ冤罪事件撲滅に力を尽くしたいとの力強い発言がありました。袴田えん罪事件への支援も是非お願いしたいと会終了後ご挨拶してきました。会場いっぱいの参加者（約３００名？）は、軽妙な語り口に笑いを誘われながらも改めて日本の統治権力のセコサと制度欠陥の怖さを再確認させられました。（石井）■

１０月１９日（金）新田さんが袴田巌さんと面会しました。

１０月１９日（金）午後、日本プロボクシング協会・袴田巌支援委員会の新田渉世さんは袴田巌さんとの面会のため、東京拘置所を訪れました。

新田さんによると、これまで面会した中でも巌さんの状態は良く感じられたそうです。

「体調はどうですか」との質問に、巌さんは「非常に良い」と答えたそうです。

最近のボクシング界の活発な取組みや、今後のスケジュールを伝えると､「バイキンを殺す儀式は終わった。これからは生かす儀式が始まる…」「お金ならいくらでも出すから、ボクシング界も代表を立てて、自分とうまくやっていけば良い。」と答えたとのこと。

表現は多少不自然に感じられますが、これまで現実の状況を完全に否定し、意味不明の言動に終始していたことと比較すると､「支援の動きを敏感に感じ取り、自由への期待が多少とも心の中に芽生えたのではないか」と新田さんは語っていました。

また、これまでは面会時間が終了すると、そっけなく房に戻って行った巌さんが、今日は終了時間を気にし、最後に「ありがとうございました」と礼を言っていたそうです。

新田さんをはじめ支援者の地道な面会活動が、少しづつ巌さんの閉ざされた心を開かせている、そんな気がしてなりません。■

「最高裁に再審開始を迫る」清水のボクシング会場で、小川秀世弁護士が力強くアピール！

観客に支援をアピールする三津山立直会長（中央）

１０月２１日（日）に静岡・清水マリンビル特設会場で行われたボクシング興行、第 48 回三津山ボクシングアワー（三津山プロモーション主催）において、袴田事件の再審支援を訴えました。

当日は、事件の起きた静岡県旧清水市を中心

に活動する『袴田巌さんを救援する清水・静岡市民の会』のメンバーが中心となって、静岡県内では初めてボクシング会場でのリングアピール、Tシャツ販売、要請署名集め、チラシ配布が行われました。

この日は袴田秀子さん、支援者とともに、当日のプロモーターである三津山立直さん、小川秀世弁護士がリングに上がりました。

三津山さんはかつて袴田さんとともにボクシングジムで汗を流した思い出を披露し、一日も早い再審実現を観客に訴えました。

また小川弁護士は、弁護団が年内に最終意見書を最高裁に提出し、早期再審開始を求める方針を明らかにしました。

いよいよ勝負の時は迫っています。皆さん、絶大なる支援をお願いします。■

１０月２８日（日)、浜松福祉交流センターで『袴田巌さんを救おう！浜松集会』が開催されました。

１０月２８日（日）午後1時３０分から、浜松福祉交流センターで『袴田巌さんを救おう！浜松集会』（主催：浜松・袴田巌さんを救う会）が開催されました。袴田さんの出身地である浜松では１７年ぶりの活動再開となりましたが、当初の予想をはるかに上回る７５名の参加者が集まり、熱気に満ちた集会となりました。

巌さんの小学校時代の同級生でもあったという、渥美邦夫代表の開会の挨拶のあと、この日午前中に清水市の事件現場を視察してきたボクシング界の方々が挨拶を行いました。

東日本ボクシング協会・大橋秀行会長は、来年1月２４日にボクシング協会が､"袴田巌支援チャリティBOXING ～FREE HAKAMADA NOW～"を開催することを紹介し､「今話題となっている内藤大助選手や亀田兄弟にも協力を呼びかける」と話しました。

また、日本プロボクシング協会・北沢鈴春事務局長も、ボクシング界とともに世論を盛り上げていってほしいと、参加者に訴えました。

袴田巌支援委員会・新田渉世実行委員長は、最近の袴田さんとの面会の様子を説明､「少しづつですが、袴田さんの言葉に前向きさが出ている感じがする。世間の支援の動きを感じているのではないか」と話していました。

中川真弁護士（袴田事件弁護団）は『再審の扉を開かせるために』と題して講演。先日、弁護団の小川秀世事務局長が年内に最終意見書を提出する意向を表明したことを受けて､「再審の門は決して大きくはないが、支援者らと力を合わせて再審を実現させたい」と力強く語りました。

討論会を行う熊本典道さん（左）と劇団『砂喰社』のメンバー

またこの日は九州から、熊本典道元裁判官も駆けつけ、来年に袴田事件をテーマにした劇を講演予定の劇団砂喰社のメンバーと討論会を行いました。

浜松・袴田巌さんを救う会では、今後も定期的に例会を開催する予定です。浜松の皆さん、力強い再スタートを切った同会に積極的にご参加ください！■

１０・２８浜松集会に先立ち、ボクシング界の皆さんが旧清水市の事件現場を視察しました。

１０月２８日（日）午後に行われた浜松集会は多くの参加者を集め、大成功に終わりましたが、大橋秀行・東日本協会長をはじめとするボクシング協会の皆さんは集会に先立ち、旧清水

事件現場を視察する（左から）北澤鈴春事務局長、大橋秀行協会長、新田渉世実行委員長

市の事件現場を訪れました。

今回視察をされたのは大橋会長のほか、北澤鈴春・日本プロボクシング協会事務局長、新田渉世・袴田巖再審支援委員会実行委員長の３名です。

事件発生現場には、４０年以上経過した今も当時の土蔵や裏門が残っています。袴田巖さんを救援する清水・静岡市民の会・楳田民夫代表の案内を聞きながら、お三方とも東海道線の線路越しにじっと現場に見入っていました。

このあと線路を渡って玄関側に移動し、隣家との距離を確認。

「軒がこれだけ接しているのに、被害者の叫び声が聞こえないはずがない」と声をそろえていました。

視察を終えたあと大橋さんはテレビ局の取材を受け､「事件現場を見て改めて袴田さんの無実を確信した。今後もボクシング界として支援活動に取組み、何とか早期再審を実現させたい」と語っていました。■

日本プロボクシング協会・ファイティング原田会長がリング上から袴田事件支援をアピールしました！

ついに日本プロボクシング協会長、ファイティング原田さんが袴田巖さんの支援に再び立ち上がりました！

１０月３１日（水)、A級トーナメント決勝戦の熱戦が繰り広げられる後楽園ホールのリング上から、袴田事件のアピールが行われました。

はじめに袴田巖支援委員会の新田渉世さんから事件の概要が説明された後、袴田事件弁護団の村崎修弁護士がマイクを握りました。

「今年、静岡地裁で死刑判決を下した熊本典道元裁判官が‘ 実は袴田さんは無実であり､様々な圧力のもとで心ならずも死刑判決文を書いたことを悔いている ”ということを告白しました。弁護団は年内にも最終意見書を提出し、ボクシング界や支援者の力を借りながら、一日も早い再審開始の決断を最高裁に求めていきます！」

巖さんの姉の秀子さんは､「面会時にボクシングの話をするととても喜んでいる。ボクシングしか知らない弟です。皆さんのご支援をよろしくお願いします」と挨拶しました

続いて新田さんが、来年１月２４日（木）の協会主催イベント“ 袴田巖支援チャリティＢＯＸＩＮＧ　～ＦＲＥＥ　ＨＡＫＡＭＡＤＡ　ＮＯＷ～ ”について簡単な説明をしました。

リング上で袴田秀子さん（右）と言葉を交わすファイティング原田協会長

そして最後に、ファイティング原田会長が挨拶をされました。

「自分もこれまで懸命に、ボクシング界の仲間である袴田さんを応援してきました。今、弁護団や新田さんら若いボクシング界の皆さんが一生懸命がんばっています。今後ともご支援よろしくお願いします」

そして原田会長は秀子さん、村崎弁護士と固い握手を交わし、袴田さんの再審開始を誓い合っていました。■

日比谷野音で行われた『狭山事件の再審を求める市民集会』で袴田事件をアピールしました！

石川一雄さん（左）らとアピールする袴田秀子さん

１０月３１日（水）午後１時から日比谷野外音楽堂において『狭山事件の再審を求める市民集会　～えん罪なくせ！いまこそ司法民主化を！～』（主催：狭山事件の再審を求める市民の会ほか）が開催されました。

この日は、現在東京高裁に第三次再審請求を行っている狭山事件の石川一雄さんのほか、鹿児島志布志選挙違反や痴漢冤罪事件の当事者が参加しました。また袴田事件からは姉の袴田秀子さんと『袴田巌さんを救援する清水・静岡市民の会』の山崎俊樹事務局長が登壇し、事件のアピールと連帯の挨拶を行いました。

秀子さんのアピールの後には、石川さん、早智子さんとともに一雄さんのお姉さんが駆けつけ、手を握り合うシーンがありました（写真）。

集会後は、国会前までデモ行進を行い、取り調べの完全な可視化と証拠開示の保障を実現する法定化を求める国会請願を行いました。■

１１月４日（日）昼はさいたまスーパーアリーナ、夜は後楽園ホールで袴田事件をアピール！

１１月４日（日）、この日２ヶ所で行われたボクシングの試合会場で袴田事件をアピールしました。

鐘百繊維工業の山本社長（右）も駆けつけました

まずは昼にさいたまスーパーアリーナで行われたWBA世界フライ級タイトルマッチ（坂田対デンカオセーン）。支援者に混じり、鐘百繊維工業の山本社長も駆けつけ、声を張り上げ観客のみなさんに袴田事件の支援を訴えました。

世界戦終了後は後楽園ホールに移動。夜は東日本新人王決勝戦の会場内で引き続きアピールを行いました。

両会場とも多くのカンパをいただきました。T シャツにご希望のデザインやサイズがなく、購入を断念されたみなさん、また近いうちにボクシング会場ほかで販売を行いますので、もう少しお待ちください。また近日中にネット販売も実施しますので、ご期待ください！■

１１月６日（火）日本外国特派員協会で、熊本典道元裁判官と小川秀世弁護士の講演が行われました。

１１月６日（火）、有楽町の日本外国特派員協会に熊本典道元裁判官と小川秀世・袴田事件弁護団事務局長が招かれ、"The Iwao Hakamada Case"と題した講演が行われました。

講演の冒頭、熊本さんは、「このような思いがけない機会をいただき光栄ではあるが、ここまで４１年間、彼の冤罪を晴らせないことが無念でならない」と切り出しました。

「司法修習生時代の同級生１０人が、当時こ

んな賭けをしていたそうです。“袴田事件の判決を、熊本は黙ってサインをした後で、何かとんでもない事をしでかすか。あるいは判決文を書かずに辞表を出すか”と。結果は５対５だった。つまり、みんな袴田事件に関しては無罪の心証を持っていたんです。」

小川秀世弁護士（中央左）と熊本典道さん

「これといった証拠もないから、静岡県警は袴田さんの身柄を２０日間近くも拘束し、一日平均１２時間も休みなく取調べを続け、自白を引き出した。この過程を知ったときに、これはおかしい、無罪かもしれないと直感的に思いました。」

そして、なぜ無罪心証を持っていたにもかかわらず死刑判決文を書いたかについて、「当時は本当に悩み、いっそすべてを放り出して、裁判官を辞めようかと真剣に考えました。しかし静岡地裁の裁判官三人のうち、一人でも袴田さんの無実を思う人間がいたことを判決文の中に折り込むことで、のちの時代に誰かが気付いてくれることを信じ、断腸の思いであの判決文を書いたんです。」と語りました。

また小川弁護士は、袴田事件から４１年経った現在も、鹿児島志布志事件や富山連続婦女暴行事件など、相も変わらず冤罪を続発する日本の刑事司法制度を“野蛮だ”と断罪。

そして弁護団として年内に最終意見書を提出し、早期の判断を最高裁に求める意向を表明しました。■

後楽園に連日響く袴田支援の声！ １１月１日（木）リング上から新田渉世会長がアピールしました！

アピールを行う新田渉世会長（右）

もうボクシング界の勢いは止まりません！

１１月１日（木）夜、後楽園ホールで行われた新田ジム自主興行～ホープフルファイトvol.2 「リングが教室。」～において、袴田巌さんを支援するアピールが行われました。

セミファイナル前のインターバルに、本興行を主催する日本プロボクシング協会・袴田巌支援委員会の新田渉世会長がリングに上がり、事件の概要説明と支援協力を訴えました。また、袴田さん支援Tシャツのアピールも行いました。

この日は新進気鋭のジムの興行ということもあり、いつにも増して若いファンが目立ちましたが、新田会長の活躍のおかげで大半の方が４１年前に起きた袴田事件をご存知の様子でした。「がんばって下さい」「必ず無罪を勝ち取って！」といった激励の声とともに、多くの方にTシャツ購入やカンパをいただきました。

ところで、新田ジムの若手ボクサーや練習生の皆さんには、普段から多大なサポートをいただいています。この日も会場にいち早く入っていただき、試合プログラムに事件の概要を記したビラを挟み込む作業をしてもらいました。本当に感謝しています。

この日見事２勝目をあげた新田ジムのホープ、古橋大輔選手も昨年来様々な作業をお手伝

いいただいている一人です。この日も試合後、左目を大きく晴らしながらも私たちのもとを訪れ、激励の言葉をかけてくれました。

また、１１月４日（日）の東日本新人王決勝戦の大舞台を控えた岳たかはし選手も、「練習でこのＴシャツを着て袴田事件をアピールします」と、Ｔシャツを購入してくださいました。事件を知らない若い世代にも、着実に支援の輪が広がっているのを実感します。■

１１月５日（月）、大井町で「人権の２１世紀をつくる文化の集い２００７」が開催されました。

鎌田慧さん（左）と中山千夏さん

中山千夏さん（作家）・鎌田慧さんによるトークイベントが、１１月５日（月）、大井町・きゅりあん小ホールにて行われました。この「文化の集い」には３年前から「袴田巌さんの再審を求める会」も賛同団体として参加しております。当日はロビーにて袴田支援Ｔシャツや書籍の販売をさせていただきました。

今年は鹿児島志布志の選挙違反事件（２００７．２無罪判決）、富山強かん事件（２００７．１０無罪判決）、大阪アパート放火事件（２００７．３無罪判決）、北方事件（２００７．３無罪判決）と立て続けに冤罪事件の無罪判決があり“えん罪”“自白強要”“証拠捏造”などの言葉がマスメディアを賑わせてきました。さらに袴田えん罪事件で死刑判決を書いた元静岡地裁裁判官・熊本典道氏が「あの判決文はインチキなもので、自分は無罪を主張したが２対１の多数決で合議に破れたために心ならずも書いたものだ」と判決から３９年目にして衝撃の事実を告白しました。

こうした中、２００９年にスタートする裁判員制度への一般市民の不安は大きくなりつつあります。ご自身が警察に取り調べを受けたり、事情聴取をされたりした経験を踏まえつつ警察・検察の暴走を防ぐ制度の在り方や、市民の心構えなど縦横に語ってくださいました。■

１２月１日（土）守大助さんに無罪判決を！～無理やり作られた筋弛緩剤混入事件～

集会で守大助さんの無実を訴えるご両親

１２月１日、東京・杉並にて仙台・北陵クリニック冤罪事件・守大助さんを支援する集会が１００名以上の参加者で開かれました。本会からも袴田さん支援関係のビラ入れと若干のアピールをさせていただきました。ジャーナリスト山口正紀氏の講演、弁護団長・阿部泰雄弁護士による事件の論点解説、最高裁での上告審の現状報告など充実した内容でした。

冤罪事件などに問題意識のある方を除けば、世間の多くは守大助さん、仙台・北陵クリニック、筋弛緩剤混入事件などの固有名詞は記憶のかなたに消えてしまっているのかも知れません。言われればそんな事件もありましたか程度で、もう裁判も終わっているのではと

思われているのかも知れません。

仙台の北陵クリニックに准看護士として勤務していた守大助さんは、２００１年１月、Ａ子さん(11)の急変に関し殺人未遂容疑で逮捕・起訴され、その後他の患者を合わせて計５件で逮捕・起訴されたのでした。しかし、そもそも殺人事件を裏付けるような物証や状況はなく、医療過誤あるいは偶然の事故、末期患者の自然死などを無理やりに（発端はどうやら警察の思い込み捜査）事件とされ‘犯人探し’の犠牲になったのが守大助さんだったのです。

一審二審での検察側有罪立証はことごとく破綻したにも拘らず無期懲役とされ、現在、最高裁で上告審が継続中です。事件や集会の詳細は「無実の守大助さんを支援する首都圏の会」のＨＰなどを参照ください。

http://homepage2.nifty.com/daisuke_support/

当日は守大助さんのご両親と元同僚の看護士も集会に参加され、大助さんの無実を訴えられました。

お父さんは元宮城県警の刑事で、まさか自分の息子が自分の同僚たちの思い込みによる杜撰な捜査、強引な取り調べによる自白強要で殺人犯にデッチ上げられようとは思いもよらないことだったでしょう。しかし、彼は大助さん逮捕後に１ヵ月の休暇を取って自ら“捜査”をし、信頼していた同僚たちの杜撰な捜査状況に驚くと共に息子の無実に確信を持ったと当時を振りかえっておられました。

また、お母さんは逮捕直後の１ヵ月はマスコミのさらし者にされるのを避けるため自宅を離れておられたことを語られ、家の壁に心無い落書きなどされはしないかと案じたといいます。しかし、１ヵ月後に自宅に戻ると友人・知人・同級生などから激励の留守番電話やFAXが入っていたそうです。ご近所の方からは「早く帰ってこられると好いのにと思いながら、心配していましたよ」と温かい言葉をかけられて嬉しかったと話されていました。ご両親が文字通り身体を張って息子さんの無罪判決を勝ち取るために奮戦している様子を伺い、深い感動と勇気を与えていただきました。

再審請求の困難さをつくづく感じている私たちとしては、絶対に最高裁で逆転無罪判決を得て大助さんを取り戻さなければならないと考えます。多くの皆さんにこの事件への関心を集めてもらい出来ることを一つでも実行して応援していきたいと思いました。（石井）■

１２月１日（土）専修大学において公開シンポジウム『冤罪は、いつまで続くか』が開催されました！

講演を行う矢澤昇治弁護士

１２月１日（土）午前１０時３０分から、専修大学神田校舎において公開シンポジウム『冤罪は、いつまで続くか』が開催されました。

昨年は本会・鈴木事務局長が袴田事件の報告をさせていただいた同シンポジウムですが、今年はよりスケールアップし、実に豪華なイベントとなりました。

当日は布川事件・元被告の櫻井昌司さんと谷村正太郎弁護士、名張毒ぶどう酒事件の野嶋直人弁護士のほか、袴田事件で一審に死刑判決を書き、今年になって実は無罪と確信していたと衝撃の告白をした熊本典道元裁判官が講演を行いました。また、清水の会・山崎事務局長が袴田事件に関する報告をパワーポイントを用いて行い、好評を博していました。

（８ページに関連記事）■

１２月４日（火)、後楽園ホールで輪島功一さんが再び吼えた！若手弁護士がアピールした！そしてラブワンセーラーズが訴えました！

ファイティングポーズをとる（左から）指宿昭一弁護士、輪島功一さん加藤英典弁護士

１２月４日（火）夜、東京・後楽園ホールで行われた、「ゴールデンチャイルドボクシングvol.８５＆トクホンダッシュ第７１弾」のリング上から、またも輪島功一さんが強烈アピールを行いました。

本興行のプロモーターである金子、トクホン真闘両ジムのご好意で、すっかり恒例となったリングアピール。いつも思うことなのですが、輪島さんは本当にスピーチの天才です。

とにかく輪島さんがリングに登場しただけで、観客席からはやんやの歓声が上がります。口角泡を飛ばして支援を訴えるのですが、時おり入る客席からの喚声にはしっかり対応し笑いを取る余裕も。気が付けばみんなすっかり“輪島功一ワールド”の虜になっているのです。

振り返れば、現在のボクシング界による支援の礎を築いたのは、紛れもなく輪島さんでした。昨年５月に東日本ボクシング協会の袴田巌再審支援委員会委員長に就任すると、機会あるごとに袴田さんへの支援を訴えてきました。

昨年９月には、当時実現の可能性がほとんどなかった袴田さんへの面会を求め、東京拘置所を訪問。その真摯な姿勢に心打たれたものです。

そして昨年１１月には、全国から集められた要請書提出のため、最高裁に乗り込みました。ボクシング界がその枠を超えて行動を起こしたのは、この時が初めてでした。そしてその様子がマスコミを通じて伝わり、一審で死刑判決を書いた熊本典道元裁判官の登場につながったのです。

年月の重さに埋もれていた袴田事件に、再度スポットをあてさせた輪島さんの功績は計り知れないものがあるのです。

さて、この日は輪島さんのほかにも、袴田事件弁護団の若手弁護士である指宿昭一弁護士（暁法律事務所）と加藤英典弁護士（アディーレ法律事務所）がリングインし、アピールを行いました。指宿さんは新人弁護士とは思えぬ堂々たる話し振りで、「多くの国民の後押しで袴田さんの再審を一日も早く実現させたい」と訴えました。また熱烈なボクシングファンでもある加藤さんは、「ボクシングファンの弁護士として，袴田さんの釈放に向けて全力を尽くします」と語り、拍手を浴びました。

声を枯らして支援を訴えるダンスユニット“ラブワンセーラーズ”のみなさん

そしてもうひとつ忘れてはならない袴田さんの強力サポーターが、ダンスユニット“ラブワンセーラーズ”です。試合中はラウンドガールを務める彼女らですが、試合が終わると一目散に会場出口に駆けつけ、最後の一人が会場を後にするまで、声を枯らせて支援を訴えてくださいます。メンバーの皆さんが生まれるはるか以前の事件ですが、しっかりとことの重大性を理解し、必死にアピールする彼女らの姿勢に、深く感謝します。■

活動日誌

10/7(日)　『さいしん』発送作業
（かながわ県民センター）

10/11(木)　内藤対亀田戦会場でアピール
（有明コロシアム）

10/13(土)　「響かせあおう死刑廃止の声2007」でアピール（江東区総合区民センター）

10/28(日)　袴田巌さんを救おう！浜松集会」参加（浜松福祉交流センター）

10/31(水)　鈴木事務局長、巌さんと面会実現､「狭山事件の再審を求める市民集会」アピール（日比谷野外音楽堂)、A級決勝戦会場でアピール（後楽園ホール）

11/1(木)　新田ジム自主興行でアピール
（後楽園ホール）

11/4(日)　坂田世界戦会場、東日本新人王決勝戦会場でアピール（さいたまスーパーアリーナ､後楽園ホール）

11/5(月)　「人権の21世紀をつくる文化の集い」参加（大井町・きゅりあん）

11/6(火)　鈴木事務局長、巌さんと面会
日本外国特派員協会主催、熊本典道元裁判官講演に参加（有楽町）

11/14(水)　鈴木事務局長、東拘訪問も拒否される
弁護団会議（静岡弁護士会館）

11/17(土)　人権と報道連絡会集会でアピール（東京・水道橋）

11/21(水)　新田渉世氏とイベント打合せ（川崎）

11/27(火)　袴田巌チャリティボクシング記者会見参加（後楽園展示会場）

12/1(土)　守大助さんを支援する集会でアピール（東京・杉並）公開シンポジウム『冤罪は、いつまで続くか』でアピール（専修大学神田校舎）

12/4(火)　金子ジム、真闘ジム合同興行でアピール（後楽園ホール）

活動予定

求める会

12/11(火)
新田会長とともに東京拘置所訪問予定
フラッシュ赤羽ジム興行でアピール（東京・後楽園ホール）

12/17(月)
弁護団会議（東京・日弁連会館）

12/22(土)
全日本新人王決勝戦でアピール（東京・後楽園ホール）

その他の組織

12/17(月)
弁護団、再審請求理由補充書（３）提出。
司法記者クラブにおいて記者会見

1/13(日)13:30～
清水集会（清水テルサ）

1/24(木)
袴田巌支援チャリティＢＯＸＩＮＧ　～ＦＲＥＥ　ＨＡＫＡＭＡＤＡ　ＮＯＷ～（東京・後楽園ホール）

カンパのお願い

今期はボクシング会場や各種集会でのアピール等、非常に多くの行動が重なったため、多額の出費を要しました。それに見合った成果は勝ち得たと自負しておりますが、今後も更なる前進をするためには、皆様の資金的援助が必要です。

来年は正真正銘、勝負の年です。ボクシング協会のイベントや、弁護団の最終意見書提出など、年明けから大きな動きが目白押しです。求める会もこうした動きと連携しながら、全力を尽くして袴田さんの再審実現に取り組んで生きます。

ご協力よろしくお願いいたします。

カンパの振込先

郵便振替口座番号 ： 00120－3－410592
口座名称 ： 袴田巌さんの再審を求める会